

平成19年
10月30日

病害虫発生予報 11月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！
薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目次 >

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

促成ピーマン：アザミウマ類	1
トマト：黄化葉巻病	1
秋冬ハクサイ：白斑病	1

【その他の病害虫】

イチゴ，促成ピーマン，秋冬ハクサイ，冬レタス，秋冬ネギ，共通害虫

・ 病害虫ミニ情報

平成19年の主な水稲病害虫の発生経過と来年に向けた対策について	3
---------------------------------	---

・ 今月の気象予報

	4
--	---

・ テレホンサービス

029(226)5321, 6131

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・今月の予報
【注意すべき病害虫】

促成ピーマン

1. アザミウマ類
[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

10月下旬現在，寄生花率，発生地点率ともに平年よりやや高い。
気象予報によると，向こう1か月の気温は高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。なお，本虫は黄化えそ病を媒介するので注意する。
薬剤散布は，薬液が葉裏や花にもかかるよう丁寧に行なう。
薬剤抵抗性アザミウマ類の出現を防ぐため，同系統薬剤の連続散布は行なわない。

トマト

1. トマト黄化葉巻病
[現在の状況]

10月下旬現在，促成栽培（苗も含む）及び抑制栽培において発病を確認している。
10月下旬現在，本病を媒介するタバココナジラミ類は，抑制トマトにおいてやや多い発生である。
今後，抑制栽培の終了にともない，タバココナジラミ類の野外への飛び出し，及び促成トマト栽培ハウス内への飛込みが懸念される。

[防除上注意すべき事項]

ハウスの開口部には防虫ネット（0.4mm目合い）を設置し，タバココナジラミ類のハウス内への侵入を防止する。
発病が認められた株は，感染源となるため早期に抜き取り，ビニール袋等に入れて密封し，株を腐熟化させてから処分する。
栽培終了時の残さ処理にあたっては，ハウスの開口部を閉め，株の断根処理を行い，株が完全に枯死してから処分する等，タバココナジラミ類が野外に出ないように注意する。
タバココナジラミ類は発生が多くなると防除が困難となるため，初期防除を徹底する。なお本種は葉裏に寄生するため薬剤散布にあたっては，薬液は下方から吹き上げるように散布する等，葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。
雑草はタバココナジラミ類の生息場所となるため，ハウス内外の除草を徹底する。

秋冬ハクサイ

1. 白斑病
[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

(ハクサイ白斑病 続き)

[予報の根拠]

10月下旬現在，発病度，発生地点率ともに平年よりやや高い。
 気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

今後の天候に注意を払い，降雨が続く場合には適宜防除を実施する。薬剤散布は，葉裏や株元にも薬液がかかるように丁寧に行う。
 収穫間近の作型については，特に収穫前日数に注意して薬剤を選択する。
 肥切れ，排水不良等は発生を助長するので，適切な肥培管理，排水対策等を行う。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	ハスモンヨトウ	発生量：多い	10月下旬現在，平年より多い発生である。
	ハダニ類	発生量：やや多い	10月下旬現在，平年並からやや多い発生である。
促成 ピーマン	タバココナジ ラミ類	発生量：やや多い	10月下旬現在，やや多い発生である。
秋冬 ハクサイ	べと病	発生量：やや少ない	10月下旬現在，やや少ない発生である。
	軟腐病	発生量：平年並	10月下旬現在，やや少ない発生である。風雨が多いと発生が助長されるので，台風等の風雨の後には，防除を徹底する。
冬 レタス	菌核病	発生量：やや少ない	10月下旬現在，少ない発生である。
	腐敗病	発生量：やや少ない	10月下旬現在，発生を認めない。
秋冬 ネギ	さび病	発生量：平年並	10月下旬現在，発生を認めない。
	べと病	発生量：平年並	10月下旬現在，発生を認めない。
	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	10月下旬現在，やや多い発生である。
共通 害虫	ハスモンヨトウ	発生量：平年並 ～やや多い	10月下旬現在，平年並からやや多い発生である。また，フェロモントラップへの誘殺数は平年より多いが，今後の発生は例年減少する。
	オオタバコガ	発生量：平年並	10月下旬現在，ハクサイで平年並の発生である。またフェロモントラップへの誘殺数は平年並である。

平成 19 年の水稲における主な病害虫の発生経過について

本年の水稲における主な病害虫の発生経過については、下記の通りでした。今後の防除対策の参考として下さい。

1．初期害虫

イネミズゾウムシ：成虫が山林の腐植層等で越冬し、水田には田植直後から成虫が侵入する。本年は田植前の4月の気温が低く推移し、越冬成虫の活動開始が遅かったため、イネの初期生育が優り、相対的に食害程度は低くなった。このため、移植時期が遅い水田では成虫による食害が目立ったものの、平年より発生時期はやや遅く、発生量は少なかった。

イネドロオイムシ：成虫が雑草地の枯草の下等で越冬する。この越冬成虫が田植後のイネに産卵し、ふ化した幼虫が主に加害する。本年は、昨年が多発生であったことと、冬季が温暖で、越冬した成虫が多かったことから、5月下旬のイネへの産卵数は平年より多く確認された。このため、本田での発生時期は平年並であったが、平年より広い範囲で発生し、被害程度が高い水田も確認され、発生量は平年より多かった。

本虫は、食害のピークが6月下旬で、イネミズゾウムシより発生時期が遅いため、育苗箱施薬で防除する場合は、効果が長続きする薬剤でないと防除効果が低い。

2．いもち病

葉いもち病は6月下旬から発生し始め、7月下旬の梅雨明け直前頃に最も発生量が多くなる。本年は、梅雨入りが平年より遅く、初発（発生開始）は平年より遅かった。しかし、梅雨明けが例年より遅かったため、葉での発生が助長され、発生量は平年よりやや多くなった。特に葉色が濃い水田や、山の陰になる等、イネの葉についた露が乾きにくい水田では発生が多く確認された。一方、穂いもちの発生時期は、出穂が早まったことからやや早かったが、出穂期以降は概ね晴天が続いたため、発生量は少なかった。

窒素過多は発病を助長することから、冬季に土壤診断を行い、適正な施肥量を把握しておくことが大切である。また、田植え後に水田に放置された苗からいもち病が広がっている事例が確認された。置苗は伝染源となるので、田植後には余った苗を水田に放置しないことが重要である。

3．斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）

斑点米を発生させるカメムシ類は、イネの出穂前には水田周辺のイネ科雑草に生息し、出穂とともに水田に侵入する。本年は、出穂前の水田周辺イネ科雑草における発生量は平年並であった。本田における発生時期は平年よりやや早かったが、発生量は平年並であった。

防除適期は、穂揃期とその10～20日後位で、この時期に乳剤等の薬剤を散布する必要がある。イネでカメムシ類に登録されている粒剤はあるが、クモヘリカメムシに対して防除効果は低い。斑点米カメムシ類のうち、本県の優占種であるクモヘリカメムシは、これまで県南、県西地域の平坦部ではあまり確認されなかったが、近年はこのような地域でも確認されており、注意が必要である。

4．特異的に発生した病害虫

黄化萎縮病：田植え後30日前後のイネが浸・冠水を受けると発病が多い。本年は6月上旬に激しい雷雨があり、この際に浸・冠水した水田で発生が確認された。

イネツトムシ：6月下旬の第1世代幼虫の発生は多かったが、梅雨明けが遅れたため第1世代幼虫の産卵が抑制され、第2世代幼虫の発生量は平年並であった。しかし、飼料イネ等、葉色が濃い水田では多発生が確認された。

病害虫の写真は、病害虫防除所ホームページで確認できます

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 10月27日から11月26日)

気象庁 (10月26日 発表)

< 向こう 1 か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	30	50
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ、晴れの日が少ない見込みです。

< 1 週目の予報 > 10月27日(土曜日)から11月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

< 2 週目の予報 > 11月3日(土曜日)から11月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに 40%

< 3 週目から 4 週目の予報 > 11月10日(土曜日)から11月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに 40%

・ テレホンサービス

下記の情報を 24 時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号 : 029 (226) 5321 , 6131

11 月上旬 イチゴの病害虫発生予想と防除対策及びトマト黄化葉巻病について

11 月下旬 イチゴの病害虫発生予想と防除対策について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。